

第7回 熊野川懇談会

参考資料 1

議 事 概 要

(検 討 会 ・ グ ル ー プ 会 議)

1. 第6回懇談会以後に開催された懇談会・検討会・グループ会議の審議概要

< 第6回懇談会以降の審議概要 >

会議名	開催日 (開催場所)	審議内容
第6回 熊野川懇談会	10月7日 (紀宝町)	<ul style="list-style-type: none"> ○熊野川の利水・環境に関する説明(河川管理者) ○利水・環境分野に係る質疑応答 ○委員の再任の了承 ○今後の進め方 <ul style="list-style-type: none"> ・ 熊野川流域の課題に対する意見をとりまとめるため、「流域のまとめ」を作成する。 ・ 「流域のまとめ」作成にあたり治水・利水分野と自然・社会環境分野の2つのグループ会議を設置。 ・ 委員はいずれかのグループに属する。(主担当委員を決定) ・ 次回懇談会においては委員からの情報提供を議事に入れる。
第3回 検討会	11月26日 (和歌山市)	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ会議の進め方の確認 ○これまでの審議で取り上げられた流域の課題について
第1回 グループ会議	(環境G) 11月26日 (和歌山市)	<ul style="list-style-type: none"> ○熊野川流域の環境分野に関わる課題についての意見交換 ○環境分野における分類を設定。分野ごとに担当委員を決定
	(治水・利水G) 11月26日 (和歌山市)	<ul style="list-style-type: none"> ○熊野川流域の治水・利水分野に関わる課題についての意見交換 ○治水・利水分野における分類を設定。分野ごとに担当委員を決定
第2回 グループ会議	(環境) 12月21日 (和歌山市)	<ul style="list-style-type: none"> ○担当委員による流域の課題案に関する説明 ○環境分野に関わる課題についての意見交換 ○今回の審議された内容を環境分野の課題案としてとりまとめる
	(治水・利水) 12月26日 (大阪市)	<ul style="list-style-type: none"> ○担当委員による流域の課題案に関する説明 ○環境分野に関わる課題についての意見交換 ○今回の審議された内容を治水・利水分野の課題案としてとりまとめる
第4回 検討会	1月17日 (和歌山市)	<ul style="list-style-type: none"> ○「流域のまとめ」の目次構成とその内容について意見交換 ○課題案の内容に関する意見交換 ○熊野川が目指すべき川づくりのキャッチフレーズについて意見交換(次回までに各委員が案を作成する) ○各分野毎に決められた担当委員が構成案を作成し次回審議を行う

2. 第3回 検討会の概要

開催日・場所

開催日時 平成18年11月26日(日)13:00～14:00

開催場所 和歌山県民文化会館401会議室委員

主な議事内容

(1) グループ会議等の進め方について

グループ会議の進め方

・「(仮称)流域のまとめ」の中間報告の作成に向けて、12月の下旬にグループ会議を開催する。日程は以下のとおり。

○治水・利水グループ 12月26日(火) 大阪市内(ホテル新大阪)

○自然・社会環境グループ 12月21日(木) 和歌山市内(和歌山県民文化会館)

第7回懇談会の進め方

・第7回懇談会は2部構成とし、第1部で委員からの情報提供を行い、第2部でグループ会議の審議内容の中間報告等を行う。

・第1部においては、治水、利水、自然環境、社会環境の各分野の話題について以下の委員が代表して発表を行う。なお、発表時間は一人20分以内とする。

○ 治水分野 椎葉委員

○ 利水分野 井伊委員

○ 自然環境分野 瀧野委員

○ 社会環境分野 橋本委員

3. グループ会議（治水・利水分野）の概要

第1回グループ会議

開催日・場所

開催日時 平成18年11月26日(日)14:00～16:00

開催場所 和歌山県民文化会館401会議室

主な議事内容

(1) 治水・利水分野の流域の課題について

・流域の課題を整理するに当たり、治水・利水分野が下記の項目に分類され、分類ごとに課題を整理する担当委員が指名された。分類および担当委員は以下のとおりである。

< 治水分野 >

分類	担当
1. 安心できる目標流量	(清岡委員、間瀬委員)
2. 浸水被害の軽減	((全体): 椎葉委員長代理)
ソフト対策	(古田委員)
ハード対策	(吉野委員)
ダム ¹ の運用	(椎葉委員長代理)
河川整備	(井伊委員、木本委員)
3. 河川整備の連携: 上・中・下流	(江頭委員長)
4. 河床の管理	(間瀬委員)
5. 津波対策	

< 利水分野 >

分類	担当
1. 瀬切れの対応(維持流量の確保)	(椎葉委員長代理、古田委員)
2. 濁水長期化への対応	((全体): 井伊委員、木本委員)
ソフト対策	(井伊委員、木本委員)
ハード対策(選択取水設備、山林保全)	(吉野委員)
3. ダムの土砂堆砂の対応	(清岡委員、間瀬委員)

(2) その他

< 今後の作業 >

- ・庶務は11月27日(月)中に流域の課題についての様式を各委員に送付する。
- ・各委員は担当(必須)および担当以外(任意)の分類ごとに課題を整理し、12月12日(火)までに庶務へ送付する。庶務は課題をとりまとめ、主担当委員に報告する。

第2回グループ会議

開催日・場所

開催日時 平成18年12月26日(火) 14:00～17:00

開催場所 ホテル新大阪 東口ステーションビル 403会議室

主な議事内容

(1) 流域の課題に対する意見について

< 治水分野 >

目標流量

- ・極値解析によると1/100確率の流量規模は28,000 m³/sとなり現在とは大きく異なった結果となる。

浸水被害の軽減

- ・ハザードマップについては、住民に対して判りやすく啓発することが重要である。
- ・今後20年～30年の河川整備計画では、上流の発電ダムの治水面での協力を加味した計画づくりが現実的と考えられる。
- ・基本方針での目標流量と整備計画での目標流量は異なってもかまわないのではないか。
- ・堤防高さ管理、河床掘削などは、流域全体の視野で捉える必要がある。

河川整備の連携 上中下流

- ・濁水長期化対策については、上流から下流まで一連の解析を行う必要があるのではないか。
- ・熊野川流域での連携した土砂管理の体制づくり、あるべき姿の検討が必要である。
- ・熊野川では、熊野川圏域総合流域防災協議会(行政のみ)が昨年より開催され、流域での調整、連携が図られている。
- ・地域振興、歴史文化の面からも連携というキーワードが重要となる。

土砂の管理

- ・河口砂州の大きさは、土砂の流出状況の指標となるため定点観測を行う必要がある。

津波対策

- ・浜辺歩き、釣り客を対象とした津波避難対策が必要である。

< 利水分野 >

瀬切れ対応(維持流量の確保)

- ・舟下り復活のため、瀬切れ部分等に対して、流路掘削を行っても良いのではないか。
- ・情報の一元化と情報公開を進めれば様々な可能性が広がる、河川カメラ(ダムカメラ)などを設置してはどうか。

(2) その他

< 今後の作業 >

- ・環境グループからの提案を受けて、1月17日に検討会が開催出来るよう調整を行う。
- ・課題に対する意見の中で不足する内容については、1月10日までに各担当委員が作成し庶務へ送付する。
- ・「(仮称)流域のまとめ」(以後「流域のまとめ」とする)の作成に向けて、次回検討会において構成内容や熊野川のあり方等についての審議を行う。

4. グループ会議（自然・社会環境分野）の概要

第1回グループ会議

開催日・場所

開催日時 平成18年11月26日(日) 14:00～16:00

開催場所 和歌山県民文化会館 402 会議室

主な議事内容

(1) 自然・社会環境分野の流域の課題について

- ・流域の課題を整理するに当たり、環境分野が自然環境、地域振興、歴史文化、景観、維持管理の5項目に分類され、各分類ごとに担当委員が定められた。担当委員は以下のとおりである。

< 自然・社会環境分野 >

分類	担当
1. 自然環境	
水量・水質	(瀧野委員、高須委員)
流砂と河川形状(河床変動)	(江頭委員長)
生態系	(瀧野委員、高須委員)
2. 地域振興	(津田委員、橋本委員)
3. 歴史文化	(神坂委員、山本委員)
4. 景観	(浦木委員、中島委員)
5. 維持管理	(江頭委員長)

- ・庶務はグループ会議の審議内容に基づき、各分野の分類ごとの課題案を作成する。
- ・各担当委員は、担当した分類の課題案の確認を行い、整理し、意見の作成を行う。

(2) その他

- ・各委員は担当(必須) および担当以外(任意)の分類ごとに課題(案)を確認し、意見を作成の上12月15日(金)までに庶務へ送付する。庶務は課題をとりまとめ、主担当委員に報告する。

第2回グループ会議

開催日・場所

開催日時 平成18年12月21日(木) 13:00～16:00
開催場所 和歌山県民文化会館 405会議室

主な議事内容

(1) 流域の課題に対する意見について

<自然環境分野>

水量・水質

- ・発電ダムをどう位置づけできるかについては、治水・利水Gとの調整が必要である。キーワードとして維持流量も重要である。

生態系

- ・熊野川においてここ2年は洪水が無いためブラックバスが完全に繁殖している。下流ではテナガエビが少なくなったと聞く。ブラックバスの影響ではないか。
- ・猿谷でもバス釣設備が整備されつつある。法的に規制する必要があるのではないか。

<地域振興について>

- ・地域振興の課題については河川管理者がどのようにコミットするのか考える必要がある。
- ・棚田の問題などは河川管理者にお願いしても対応が難しい。農林水産省、通産省、県に頼む必要がある。
- ・地域振興をどう流域のまとめに取り込んでいくかは、非常に難しい問題であるが、例としては国交省、電発、市町村、環境省が第3機関を立ち上げ上流域対策を行うことが考えられる。

<歴史・文化について>

- ・熊野川では歴史・文化を河川整備の重要な柱として位置づけられないか。
- ・熊野川の文化を理解するための施設が整備されていない。
- ・明治22年の河川形状を調査して、当時の川の復元を考えてみてはどうか。(発掘調査の実施等)
- ・熊野川の歴史・文化を伝える手段としては「熊野川文庫」の作成がある。一般から記事を募集し写真と併せて文庫本サイズに製本する。文庫は長く世に伝えることが可能であり、熊野川のPRにも繋がる。

<景観について>

- ・御船島近くの揚水場については、周囲の景観に対して違和感を感じる。
- ・ジェット船乗場は、景観面の工夫が必要である。
- ・熊野川流域の山林においては単一な植生が景観面でネックとなっている。

<維持管理について>

- ・「河川の持つ自然的な機能の保全」の項目は、環境(生態系)の項目に入れること。
- ・伐採跡地の放置林が増加している。何らかの補助があれば山林は改善できる。
- ・維持管理については様々な分野に重なるため、項目として取り上げるのか検討が必要である。

その他

- ・治水・利水グループの了解を得た上で、1月17日に検討会が開催出来るよう調整を行う。
- ・「(仮称)流域のまとめ」(以後「流域のまとめ」とする)の作成に向けて、次回検討会において構成内容や熊野川のあり方について審議する。

5. 第4回 検討会の概要

開催日・場所

開催日時 平成19年1月17日(水) 13:00～16:00
開催場所 和歌山東急イン 橘

主な議事内容

(1) 「(仮称)流域のまとめ」の目次構成(案)について

- ・「(仮称)流域のまとめ」(以後「流域のまとめ」とする)の目次の大枠を以下のとおりとする。
 - ・はじめに
 - ・熊野川流域の概要
 - ・流域の現状と課題
 - ・整備計画の策定に向けて
 - ・まとめ

(2) 「流域のまとめ」の構成内容について

- 現状と課題について
 - <治水>
 - ・課題項目として治水施設(堤防・水門等)を追加してはどうか。
 - <利用・利水>
 - ・項目として農業水利を追加してはどうか。
 - <自然環境>
 - ・現状には「森林」を入れてはどうか。
 - ・流砂、河床形状に加え、「河口砂州」を追加するのがよいのでは。
 - ・林地の保全は多くの項目に関連しているので、流域保全として一つの項目にまとめてはどうか。
 - <社会環境>
 - ・現状についても、資料のとおり課題と同じ項目(地域振興、歴史文化、景観)としたほうが良い。
 - ・コミュニティとしての河川利用と、河川に関するイベントを追加してはどうか。
 - ・人口動態、産業動態、世界遺産については「熊野川流域の概要」に入るのではないか。
 - ・社会環境に世界遺産(文化的景観)を項目として追加してはどうか。
 - ・国交省がどこまで対応できるかは別にして、地域振興に農林業の活性化や観光振興を入れてはどうか。
 - ・自然環境の景観と社会環境の景観の違いが不明確である。
- 整備計画の策定に向けて について
 - ・流域のあり方を示す総論が必要ではないか。
 - ・河川整備基本方針の考え方との関係も加筆する必要がある。基本方針の策定スケジュールはどのようなものか。 次年度の夏頃には提示できると考えている。(河川管理者)

(3) 懇談会のコンセプト(テーマ)について

- ・各委員は、熊野川が目指すべき川づくりの内容(テーマ)を短くまとめたキャッチフレーズ案を作成すること。

(4) 今後の進め方について

- ・上述, . 熊野川流域の概要 については江頭委員長が担当する。
- ・上述, . 流域の現状と課題 の各章ごとに、担当委員が節あるいは項およびそれを説明するためのキーワードを立案する。担当委員は以下のとおりである。
 1. 治水の現状と課題 【担当委員 椎葉委員】
 2. 利用・利水の現状と課題 【担当委員 木本委員】
 3. 自然環境の現状と課題 【担当委員 瀧野委員】
 4. 社会環境の現状と課題 【担当委員 橋本委員、山本委員】
- ・次回懇談会では、委員からの情報提供と「流域のまとめ」の構成について等の審議を行う。
- ・「流域のまとめ」は表題として問題があるので方向性がわかるような名称を考える。